平成30年度　第2回　社会教育委員の会議　会議録

1　日　　時　　平成31年2月18日（月）14:00～16:00

2　場　　所　　函館市役所本庁舎　８階大会議室

3　内　　容

（1）　報告

平成31年度（2019年度）予算の概要

（2）　研究調査

演題　「コミュニティ・スクールについて」

担当　函館市教育委員会教育政策推進室

学校再編・地域連携課

4　出席委員　１１名（滝澤委員，佐々木委員，市田委員，池田委員，石﨑委員，八田委員，小池委員，佐藤（正）委員，川口委員，板東委員，佐藤（勝）委員）

5　欠席委員　　４名（長谷川委員，佐竹委員，外崎委員，竹内委員）

6　事務局出席者　７名（堀田生涯学習部長，佐藤生涯学習部次長，佐賀井教育政策推進室長，阿部生涯学習文化課長，堤学校再編・地域連携課長，井本学校再編・地域連携課主査，廣岡学校再編・地域連携課主事，円山生涯学習文化課主査，葛西生涯学習文化課主事）

7　発言要旨

円山生涯学習文化課主査	本日は何かとご多用のところ，ご参集いただきまして誠にありがとうございます。 それでは定刻になりましたので，只今から平成３０年度第２回社会教育委員の会議を開会いたします。 まずはじめに，資料の確認をさせていただきます。 皆様には，事前に資料をお送りしておりますが，本日お持ちでない方がいらっしゃいましたらお知らせください。 また，本日配布した資料が３種類机の上にあります。 座席表・名簿・平成３１年度の生涯学習部の主な予算となっております。ご確認ください。 それでは，今後の進行につきましては，滝澤委員長，よろしくお願いします。

滝澤委員長　委員長の滝澤でございます。よろしくお願いいたします。

先週の寒さの底もようやく済んだようで，今日はちょっと春らしくなってまいりました。
お忙しい中お集まりいただきまして，ありがとうございます。
第２回ということで，今日はまた第１回とは違うテーマで，みなさんから忌憚のないご意見をいただきたいなとい思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

それでは，早速ですが，次第の２　報告に入らせていただきます。
平成３１年度（２０１９年度）予算の概要について，
事務局から説明をお願いします。

阿部生涯学習文化課長　（平成３１年度（２０１９年度）予算の概要について説明）

滝澤委員長　ありがとうございました。
事務局からの説明に関して何かございますか。

川口委員　５番の文化芸術アウトリーチ事業について質問します。
椴法華の地域も施設が少なくなって，たまにこういう活動をしていたりすると，地域の人たちも喜んでいると思います。
予算が３００万円となっていますが，前年度の予算額を教えてください。

阿部生涯学習文化課長　前年度予算額も３００万円です。

滝澤委員長　他にはございませんか。
他になければ，次の次第に入ります。事務局，お願いします。

阿部生涯学習文化課長　講義の前に，次第の３「コミュニティ・スクールについて」の講義を企画いたしました趣旨をご説明いたします。
本市においては，コミュニティ･スクール（ＣＳ）を導入し，家庭･地域が学校運営に参画する体制づくりを進めており，今後は，ＣＳを中心とした地域･学校が協働して子どもたちを育む活動を一層充実していく必要があります。
今後，コミュニティ･スクール（ＣＳ）を基盤に，様々な活動が展開されていくと思いますが，さらに市民がコミュニティ･スクール（ＣＳ）に対する理解を深めることが重要ですので，この機会に，社会教育委員の皆様にご理解いただき，地域や所属する団体の方々に伝えてもらい，コミュニティ･スクール（ＣＳ）に積極的に参画していただきたいと考えております。

滝澤委員長

それでは皆様，コミュニティ･スクール(ＣＳ)に対する理解を深め，多くの方々にコミュニティ･スクール（ＣＳ）に参画してもらうため，「コミュニティ･スクール（ＣＳ）の現状と今後の展開」について，函館市教育委員会教育政策推進室　学校再編・地域連携課より説明してもらいます。

堤学校再編･地域連携課長

学校教育部　学校再編・地域連携課の堤と申します。

廣岡学校再編･地域連携課主事

学校教育部　学校再編・地域連携課の廣岡と申します。
どうぞ，よろしくお願いいたします。

〈スライド１〉

本日は「社会教育と学校教育の連携・協力」というテーマについて，本市で導入を進めていますコミュニティ･スクールの視点からお話をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈スライド２〉

早速ですが，コミュニティ・スクールという言葉をよく耳にすると思うのですが，コミュニティ・スクールとは一体何なのでしょうか。また，なぜ，今，コミュニティ・スクールが求められているのでしょうか。まずは，その部分について，お話したいと思います。

子どもの教育を担うのは，家庭と学校です。一方で，社会・経済を取り巻く環境は急速に変化しており，学校に求められているものは，ＡＩ，プログラム教育，外国語など，新しい教育に加え。学力向上，体力向上，日々の生徒指導，保護者対応，不登校・いじめの問題の解決，特別支援教育の充実など多岐にわたっています。すでに，学校だけで抱え込むことができない状況にあるとも言えます。

そうした中，学校は今までも「開かれた学校」を目指して，公開の授業参観，学校だよりなどの情報発信，また，学校評価など，家庭，地域との間の相互理解に基づき，家庭・地域の意向を反映した学校運営に努めてきましたが，今は，そこから一踏み出し，地域でどのような子どもたちを育てるのか，何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し，地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の推進が求められています。

〈スライド３〉

その「地域とともにある学校づくり」の推進へと転換を図るための仕組みとして，このコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置している学校）の導入が求められています。

この制度は，もともとは，イギリスの方で，学校理事会という制度があって，それを参考にしたと言われていますが，２０００年（H12）に政府の教育改革国民会議の報告をもとにつくられた制度で，２００４年（H16）９月にスタートしました。スタートしてからすでに１４年経っているということになります。

廣岡学校再編・地域連携課主事

では，なぜ急にその導入が進んだのでしょうか。そのことについては，また後で触れたいと思います。

〈スライド４〉

まず，コミュニティ・スクールのねらいについてですが，コミュニティ・スクールのねらいは，学校と地域が連携・協働し，当事者意識をもって子どもたちの成長を支えていく学校づくりをコミュニティ・スクールに設置されている学校運営協議会を基盤に進めていくことにあります。

保護者や地域の方々からは，今までも保護者と地域は学校と連携して学校を支えてきたのに，一体何が違うのだろうか。という声をよく聞きます。

学校と保護者，または地域が連携して取り組んでいくことについては，大きな変化はないと思います。なので，今までの取組を生かした取組みが重要になってくると思います。

ただ，このコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は，法律に基づく制度なので，平たく言えば，法律で決まっていることなので，一緒にやっていこうという重みが違ってきたということです。

みなさんは，例えば，近所で気になっている子どもがいてもなかなか声を掛けることができなかった，近所の公園で子どもが騒いでいたり，ゴミを散らかしていても，子どものことをあまり知らないので，直接伝えることに躊躇してしまったなど，学校との連携を図っていきたいと思ってはいるものの，学校の迷惑にならないかと消極的になってしまったことはないでしょうか。

今までは，学校から要望があれば，協力する，また意見を述べるなど，受け身の部分が多かったのではないかと思うのですが，これからは，法律に基づいて設置された，このコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の制度を活用して，受け身ではなく，「一緒に考えて，一緒にやっていきましょう。」と変化していくことが大切になってきます。

〈スライド５〉

さて，そうしたコミュニティ・スクールの全国の導入状況を見てみますと，平成２９年４月の３６００校から平成３０年４月には５４３２校と，一年間に１８３２校も増加しています。また，北海道は全国的にみても２０％以上と導入率が高くなっている傾向になります。

ではなぜ，これほど急激に増えてきたのでしょうか。一つは，２０１７年(H29)に法律で努力義務化になったこと，平たく言えば，今までは「設置できますよ」と言われていたものが，平成２９年からは「設置することに努めなくてはならない」というふうに変わったということが大きな要因だと思います。もう一つは，コミュニティ・スクールを導入することによる成果が少しずつ見えはじめてきたということもあると思います。

廣岡学校再編・地域連携課主事

〈スライド６〉

そうした中，本市におきましては，平成２８年度に五稜郭中学校をコミュニティ・スクールのモデル校として設置し，スタートしたところでありましたが，全国的な取組の成果や平成２９年の法改正による努力義務化も踏まえ，平成３０年度は小学校で３０校，中学校で２０校，協議会数でいうと３６協議会設置したところです。「地域とともにある学校」をより一層推進していくためには，コミュニティ・スクールの導入は重要であると考え，平成３０年度，３１年度の二年間で市立の全幼・小・中・高等学校に導入する方向で進めているところであり，来年度，全ての幼・小・中・高等学校に導入されますと，６５校１園の導入となります。

〈スライド７〉

では，そうしたコミュニティ・スクールで広がる魅力，メリットとはどのようなことがあるのでしょうか。メリットとして，子ども，教職員，保護者，地域の四つの視点でお示しさせていただきました。

まず，子どもにとっての魅力とは，一つは，地域の方々が関わってくれることで，先生対子どもの学習形態だけでなく，体験的な活動が充実してくるということ。

二つ目は，たくさんの人から声を掛けられたり，褒められたりすることで，自己肯定感や多様な人と関わることで，子どもたちに思いやりの心が育ってくということ。

三つ目は，子どもたちが，地域で活動することを自覚することで，地域の担い手としての自覚につながるということ。

そして四つ目は，多くの地域の方々が見守ってくれていることで，安心・安全な生活が送れるということです。

次に教職員にとっての魅力とは，一つは，保護者や地域の方々の理解と協力を得た学校運営が充実し，教職員自身も安心感をもって教育活動を推進できるということ。

二つ目は，地域人材を活用した教育活動が充実するだけでなく，教師自身も地域を知ることができるということ。初任の先生方にもこうした地域を知る研修を南北海道教育センターで地域に関する研修会を実施していると聞いています。

そして三つ目が，地域の協力を得ることによって，子どもと向き合う時間が確保できたり，また，子どもを一つの方向だけでなく，多面的に見ることができるということです。

また，保護者にとっての魅力としては，一つは，保護者自身，学校や地域に対する理解が深まるということ。

二つ目は，家庭だけでなく，地域の中で子どもが育てられているという安心感につながるということ。

そして，三つ目が，学校を介して保護者同士や地域の方々とのつながりが深まり，人間関係が構築できるということです。

岡学校再編・地域連携課主事

最後に地域の方々にとっての魅力としては，一つは，地域の方々が経験を生かしたり，学校との関わりをとおして，生きがいや自己有用感につながるということ。

二つ目は学校と地域がつながることで，学校が地域のよりどころになるということ。

三つ目は，学校を中心とした地域ネットワークが形成されるということ。

そして四つ目が，地域の防犯・防災体制等の構築ができるということです。

こうした魅力が広がっていくためには，かなりの時間が必要だと思いますが，コミュニティ・スクールの仕組みを効果的に活用していくことで，学校の教育力が高まるだけでなく，地域の教育力も高まってくるのではないかと期待して考えているところです。

〈スライド８〉

こうした魅力を効果的に広めていくためには，当然，具体的な活動を行っていかなくてはならないわけですが，この活動の具体的な検討を行う場が，コミュニティ・スクールに設置されている学校運営協議会ということになります。では，この学校運営協議会では，どのようなことが大切になってくるのでしょうか。文科省はこの学校運営協議会において欠かせない機能として次の３つをあげています。

１つは「熟議」です。「熟議」とは，多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら，課題解決を目指す対話のことをいいます。

それぞれ違った立場の方が委員になっているわけですから，それぞれ違った視点で学校や子どもたち，また教育活動に対する考えをもっていると思います。そうした，それぞれの考えや思いを共有することが大切です。

そう考えると，学校運営協議会の場をいかに，それぞれの考えや思いを出し合える場に工夫できるかが重要だと思います。それぞれの考えや思いが出し合えれば，取り組むべきことも明確になってくると考えています。

函館市においては，昨年の８月に東京都三鷹市でコミュニティ・スクールの立ち上げや運営に関わっていたＣＳマイスターである四柳氏を講師としてお招きし，教育振興フォーラムを開催したのですが，四柳さんもそれぞれの思いや考えを出し合えるようになるには，会議の中で一方的に聞いたり，指名して答えるだけの場面だけではなく，繰り返しの話し合いが大切であるとおっしゃっていました。それぞれの立場の人が思いを話したくなるような場面づくりが大切になってくるのではないかと思っています。

〈スライド９〉

ここには，熟議の例をのせています。この例では，グループごとに分かれて，オリエンテーションから，資料の共有，自己紹介に続き，自分の思いをまず付箋

廣岡学校再編・地域連携課主事

に書いて交流した後，グループの発表，まとめへと流れています。こうした形式で協議を行うことのメリットとしては，普段は積極的に意見を言わないような人やそういった機会のない人にとっても意見が述べやすくなるばかりでなく，色んな方からの意見が出ますので，それぞれが意識していなかった発見や気付きを得ることにもつながると考えています。

三鷹市では，話し合いを効果的に進めるために，「一人だけがたくさんしゃべらない」「人の話を聞く」「人の意見を否定したり，批判したりしない」というルールを決めているとのことです。効果的に協議を進めるためには，最初はこうしたルールも大切になってくるのかもしれません。

こうした協議の充実が，お互いの立場や果たすべき役割への理解を深め，それぞれの　役割に応じた解決策へと洗練されていきます。そして，共通の目標が明確になれば，「協働」して活動していく方向性も見えてくると思っています。

函館市では，この熟議の工夫・充実を各学校に今年度働き掛けているところであり，次年度につきましても，何かを活動しなくてはならないということではなく，まずは，来年度今年度しっかりと協議できる体制の構築に努めることが大切であるということを働き掛けてまいりたいと考えているところであります。

また，学校は，こうした「熟議」や「協働」の活動だけで終わるのではなく，こうした活動を通して，学校と保護者や地域住民等を結び付け，学校内に協働の文化をつくり出す組織してしての「マネジメント」力を強化することも大切になってきています。

保護者や地域の方々が，学校と一緒になって何かをしたいと思っても，先生方にその意識が無ければ成立しません。つまり，学校運営協議会の仕組みを利用した学校運営は，保護者や地域の方々を巻き込めばいいというのではなく，学校自身もこの仕組みを利用して組織力を高めていくことが大切だということです。この両輪がかみ合ってはじめて，「協働」が成立するのではないかと思っています。

そして，四柳先生は，こうした機能の充実を図るためには，つなぎ役となるコーディ・ネーターの役割が重要であり，このコーディ・ネーターは校長先生や教頭先生だけでなく，地域の方々が積極的になってくれることが大切であり，そうすることで，より「熟議」「協働」「マネジメント」も充実してくると言っています。

教育委員会といたしましても，最初は，地域と学校を結びつけるのが，校長先生や教頭先生であっても，次第に保護者や地域の方々がその役割を担ってくれることを期待しており，そのための研修会等を次年度計画しているところであります。

廣岡学校再編・地域連携課主事

〈スライド１０〉

ここまで，コミュニティ・スクールやその学校に設置されている学校運営協議会について説明してきましたが，今年度導入されている学校では実際にどのような活動をしているのでしょうか。

多くの学校では，子どもたちの様子を交流したり，今後どのようなことができるのかを検討したりしながら，まずは学校運営協議会が軌道に乗るように工夫しているように感じます。

私が最初お邪魔した学校は，まずは学習発表会を見学し，その後，協議会の委員さんと一緒に給食を食べて給食の感想を出すといういうような状況だったので，まずは学校を知ってもらうという状況でした。

そうした中，学校によっては，放課後の学習支援についての取組を進めたり，安全マップの作成や修正を行ったり，また，避難時における誘導訓練の熟議を行ったりするなど，具体的な活動を進めている学校もあります。

〈スライド１１〉

では，今現在，コミュニティ・スクールとして取組を進めている学校は，どのようなことを成果として感じているのでしょうか。昨年の９月に行った調査では，一番成果と感じているのが「学校と地域が情報を共有するようになった」で，次が「地域と連携した取組が組織的に行えるようになった」となっています。どの学校も大きな成果として地域とのつながりを上げています。

四柳先生は，三鷹市での，笑い話として，コミュニティ・スクールを導入しての大きな成果は，「先生が挨拶してくれるようになったこと」とおっしゃっていました。

学校運営協議の仕組みを活用して，いかに地域とつながっていくかが今後も鍵になってくるのではないかと思っています。

〈スライド１２〉

教育委員会といたしましては，各学校に対して，本日お配りしておりますリーフレットを作成し配付したところであります。

ホームページにも載せておりますので，お時間ある時に見ていただければと思います。

このリーフレットには，学校運営協議会の機能の充実を図るうえでのヒントをいくつか載せさせていただきました。その中で大切にしたいポイントは二つです。

廣岡学校再編・地域連携課主事

〈スライド１３〉

一点目は，「それぞれが自分ごとになるようなテーマを設定しましょう」ということです。それぞれの立場で考えることができるようようなテーマを設定しなければ，話を聞くだけの場面になってしまい，積極的な学校運営への参画といった主旨から遠ざかってしまいます。例えば，学力向上について協議しましょうと言っても，教育現場以外の方からは，なかなか意見は出てこないかもしれませんが，挨拶がしっかりできるような子どもになってもらうためにはというテーマにすれば，それぞれの立場での思いや考えは膨らむのではないでしょうか。

こうしたテーマの工夫一つが「熟議」つまり活発な協議につながるのかもしれません。

二点目は，「それぞれの考えや思いを出し合える場を工夫しましょう」ということです。せっかくいいテーマのもと，それぞれが自分の考えや思いを膨らませても，そのことを表現できる場がなければ，内に秘めた考えだけで終わってしまいます。もったいないことです。また，発表してくださいと言っても，慣れていない方にとっては，全体の場で手をあげて発表することはかなりのハードルの高さだと思います。しかし，お隣の方と相談してみてください，グループで相談してみてくださいといった場面を設定すればどうでしょう，話すことのハードルはかなり低くなってくるはずです。こうした場面の繰り返しが，保護者や地域の方が主体となって学校運営協議会を進めていくうえでの力となってくるのではないかと思っています。保護者や地域の方が，学校運営協議会の主体となる，こうした姿が，本来の学校運営協議会の姿だと思っています。

最初は学校のリードの方が進めやすいとは思いますが，次第に保護者や地域の方が主体となって学校運営協議会を進めていくことが大切だと思っています。「次はこんなことをしたい」といったようなアイデアが出てくる運営協議会であってほしいと思っているところです。

先程の三鷹市の例ですけども，四柳先生は，学校のリードから，保護者や地域の方，つまり学校運営協議会の委員が主体的に運営していくことができるようになるには，何回も熟議の繰り返しが必要であり，それでも何年もかかるとおっしゃっていました。焦らずしっかりとした基盤をつくっていくことが大切だと感じているところです。

〈スライド１４〉

ただ，そうはいいましても，それぞれの考えや思いを出し合えるテーマの工夫といっても，最初のうちはなかなか難しいのではないかと思っています。

そこで教育委員会といたしましては，話し合いのテーマが多くある学校については，当然そのテーマに基づいて，それぞれが意見を出し合える場面の工夫を図っていただければいいのですが，そうでない学校については，あまり難しく考え

廣岡学校再編・地域連携課主事

るのではなく，スライドにあるようなテーマでいいのではないかということを各学校にお伝えしています。

例えば，子どもの姿を共有する時間でもいいのではということです。何かのテーマを設定するのではなく，それぞれの立場から見えてくる子どもの姿を共有することで，見えなかった子どもの一面が見えてくるかもしれません。

また，１回の会議で完結しようと考えるのではなく，同じテーマで１年間掛けて検討してもいいのではないかと思っています。話し合いの形態を変えるだけで，また違った角度からの意見がでてくるはずです。

また，何かのテーマを決めて，協議をしなくてはならないと言うことではありませんので，まずは，運営協議会の委員のつながりを深めるという意図で，ミニ研修会や市の出前講座などを効果的に取り入れてもいいのではないかと思っています。

いずれにしても，まずは無理なく進めていくことが大切だと思っています。

〈スライド１５～１７〉

では，他の地域では，どのような取組をしているのでしょうか。

参考例をご紹介します。

まずは，町会と連携した防災訓練や，地域交流に触れ合える児童生徒の要望を受けて町内会から人選した先輩に学ぶ公開授業。

着付け教室，盆踊り保存会の踊りの趣旨である伝統芸能の伝承，そして，子ども・保護者・地域合同での清掃活動，保護者・地域が連携した登下校の活動，保護者や地域がそれぞれの視点で修正する安全確保の再生が既存の安全マップの見直し，ほか，地域の環境や人材を生かした学習活動。地域の人材マップ対キャリア教育支援，町内行事における子供たちの役割を設定した町内会行事への参加，ボランティアや保護者との連携をした読み聞かせ活動，そして，学校サポーターとして学力向上に向けた放課後の取組み，こういたものが参考例として挙げられています。

こう見ていきますと，取組自体は目新しいものではなく，今まで，本市の学校においても行っていた内容なのかもしれません。

大切なことは，今後，こうした取組に学校運営協議会がどのようにかかわっていくかだと思っています。

〈スライド１８〉

そして将来的には，学校運営協議会の中だけで完結するのではなく，より地域や関係する企業や機関など，連携の範囲を広げ，地域学校協働活動の充実を目指していきたいと考えているところです。

廣岡学校再編・地域連携課主事

学校によっては，学校支援地域本部を設置し，地域との連携・協働を積極的に行っていますが，これからの構想としては，こうした既存の組織も生かしながら，文科省で進めている，地域学校協働本部や地域学校協働推進の配置についても各学校の取組状況を考えながら検討していきたいと考えているところです。

〈スライド１９〉

また，先程からご説明しております，学校運営協議会の工夫と合わせて，次年度は，地域人材の発掘ということで，コーディ・ネーターの役割を担える地域の人材育成にも努めていただけるよう，来年度は各学校に働き掛けてまいりたいと考えているところであります。そのために，教育委員会といたしましても，研修会等を企画し，人材育成のサポートをしていきたいと考えております。

〈スライド２０〉

それではここで，約１０分程度の映像を見ていただきたいと思います。

この映像は，浦幌町における取組の映像となります。浦幌町は，学校数や子どもの数も少ないことから，町全体が学校運営協議会のようになっている地域であり，函館市に当てはめて考えるには多少無理がある取組ですが，ヒントはたくさん散りばめられていると思います。

堤学校再編・地域連携課長

浦幌町は，先ほど担当の方から説明があったように小さい町なんです。人口が１万３千人位で，学校も小学校２校，中学校２校です。

こちらを見ていただきます。

〈映像　約７分間〉　※　１本

堤学校再編・地域連携課長

いかがだったでしょうか。

途中で切れたんですが，浦幌町の取組みを見ていただきました。

先程少しお話させていただきましたが，人口が１万ちょっとで少ないです。

学校も，小学校２校中学校２校で，小学校の方は２００人ちょっと，中学校も１００人ちょっとで，少ない地域ではあるのですが，学校での取組みというよりは，地域全体の取組みになっております。

私自身ヒントになることがたくさんあると思って何回も見ていました。

一つは，子どもたちの声をしっかりと活かして，そのために周りの大人たちが一生懸命考えているなと。

こういった形というのは，これからの運営協議会を活発化していくという上では，素晴らしいのかなと，やっていかなくてはいけないことなのかなと，思っていたところでした。

堤学校再編・地域連携課長

また，ヒントの部分については，後ほど担当の方から説明をいたしますが，少し時間がありますので，先程担当の方から何回かお話させていただいていた「熟議」というものを，体験していただければと思います。

「熟議」というのは，難しく感じるかもしれませんが，要は，しっかり話し合いを深めていこう，ということなんです。

学校の方では，今，授業改善ということで，一方的に先生の話を聞くだけではなくて，主体的に対話する授業をしっかりやりましょうというような形でいます。

子どもたちは，意欲的に周りの人としっかりと対話をしながら，より深い学びをしております。学校でしっかりとした基盤をつくり，学校以外の中でもこういった深い対話ができるように学びをしております。

今，１０分位の映像を見ていただきました。今，みなさま方はそれぞれの立場でご活躍されているとは思いますが，この映像を見て思ったことでも構いませんし，自分だったらこうできるかなとか，こういったことをやってみたいなと，そういった視点で，時間を取らせて申し訳ございませんが，お近くの方と２分位，少し熟議，お話をしていただければと思います。

このあと，意見交流の場面もあると聞いてますので，無理に当てたりしませんので，２分間位，自分だったらこんなことができるかなと，こんなことしてみたいな，っていうところを少しお話していただけたらと思います。

よろしいでしょうか。では２分位お願いいたします。

〈２分間　交流〉

堤学校再編・地域連携課長

今，「熟議」をやっていただきました。

私たちも運営協議会に参加させていただいた時に，誰か発表してくださいって言っても，なかなか意見って出てこないんです。

あと，運営協議会に参加した時も，順々に当てられるので，運営協議会に参加したくないです，と言う方もいらっしゃいました。

実際，何かを話す，ということは意外と難しいんだと思います。

私もこういった場面だと何を話したらいいのかわからないのかもしれません。

四柳先生は，こうした話し合いが活発になるためにはかなりの時間がかかると言っています。三鷹市は，１０年位やってるので，委員さんがそれぞれ意見を出し合っておりますが，実際こういったような，みなさん意見を出し合ってじゃあこんなことをしますよと，実際動けるようになるには時間がかかるんじゃないかなというふうに思っています。

堤学校再編・地域連携課長

函館市では，来年度までにコミュニティ・スクールの１００％の導入を目指して進めています。ただ，学校にお願いしているのは，地域のみなさんが自分の考えや思いをしっかりと出せるような雰囲気や基盤づくりをやっていただきたいということ。そういった基盤がしっかりとできることによってみんなで何かをやっていこうというような雰囲気になるのかなと思っています。

〈スライド２１〉

私たちは，この映像を見て，コミュニティ・スクールとしての充実を図っていくうえで，三つのことがヒントとして見えてきました。

一つは，子どもの活躍の場を増やす工夫をしていること，二つ目は，子どもの思いを生かす取組みの工夫をしていること，そして三つ目が，地域とのつながりを意識した取組の工夫を行っていることです。

教育委員会といたしましては，こうした事例なども参考にし，引き続き，各学校の運営協議会にも参加させていただきながら，各学校の取組をサポートしてまいりたいと考えております。

〈スライド２２〉

このコミュニティ・スクールの推進は，社会教育とも大きく関係しており，社会教育　委員の皆様方とも，連携を図っていくことが，より地域学校協働活動を推進していくうえで重要になってくるものと考えておりますことから，ぜひ様々な視点でお力沿いをいただければと思っております。

本日は貴重な時間をいただきまして，本当にありがとうございました。以上で説明を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

滝澤委員長

ありがとうございました。

質疑応答に移りたいと思います。

質問等，ございませんでしょうか。

滝澤委員長

ありがとうございました。

コミュニティ・スクールについて理解が深まったと思いますが，これから，意見交換を行いたいと思います。

皆様や皆様が所属している団体で，何でも結構ですので，何か実践できることがありますか。また，実践してみたいということはありますか。

佐藤（勝）委員

大変恥ずかしい話で質問になるか分かりませんが，まず正直言います。私は，コミュニティ・スクールという言葉を聞いたことがありますが，具体的に何をするのか，どこで今何をやっているのか全く理解しておりません。

佐藤（勝）委員

今，私の住む地域の学校で「学校だより」を配布回覧しておりますが，それはあくまでも，学校の一方的な考えをみなさんにお知らせします，という内容で終わっております。

我々はＰＴＡの立場ではありませんので，会合に出るわけでもありません。町会としては「町会だより」を出しておりますが，果たして，みなさんが見ているのか読んでいるのか，分からないというような状態です。できましたら，町会とＰＴＡと学校の三者が，もう少し話し合える場があれば，もっと理解が深まってくるのかな，という現状です。

堤学校再編・地域連携課長

今おっしゃっていただいたように，今までは，学校運営協議会がなかったので，学校運営であったり部活動であったり，このような形でやってますと，協力してくださいね，みたいなことで，何か一緒にやっていきましょう，というのは若干薄かったのかなと思います。

このコミュニティ・スクール，学校運営協議会制度が入ることによって，地域学校家庭が連携をして学校運営にかかわっていきましょうというような形になります。ですから，学校運営協議会の中には，保護者や地域の方，学校との関わりが深い方，そういった方々が入って学校運営協議会を組織しています。

保護者や地域の立場の方，また関係機関の方々が意見を出し合いながら子どもたちのために何かを作っていきましょうというところなんです。

ですから，委員になってない方も，運営協議会にそれぞれの意見を反映できるようにするということが，これからは大切になってきます。

そのためには，今，学校で行っている運営協議会の内容等，本当に細かく発信をしていくことが大切になっていると思っています。

滝澤委員長

ありがとうございました。

まだ始まったばっかりの取組みですので，率直に，今までと何が違うのか，というところだと思います。

いかがでしょうか。

他の委員のみなさんも，これからは自分がそのメンバーになったら，とか，自分が今住んでる地域でこれを立ち上げたら等，何か今の時点で聞いてみたい事でも構いませんので，ございませんでしょうか。

板東委員

私の子どもは，中学生です。

随分昔に始まった「ふれあいバザー」（地域の方にも来てもらって，地域と子どもたちが触れあえるような場）という行事があり，２０年

板東委員

位続いていたのですが，昨年度末に，学校側の方から「働き方改革の関係で保護者の方を巻き込むことは大変で難しくなってきてることもあるのでやめましょう」，という提案がありました。学校の働き方改革のことは良く分かるので，先生方に負担がかかってしまいますから，やめましょうということには賛同しました。

たまたま他の中学校の方と話したら，他の中学校でもやめたという話でした。

気持ちとしては，地域と学校と交じりましょう，という企画でしたので，私たちは続けたかったのですが，働き方改革との折り合いの付け方とか，難しいようなことが一杯重なりまして，その中で，改めて地域を交えるような動きを作ることは，保護者発信ではすごく難しく，いっそのこと学校で授業に組み込んでくれたらと思っています。

保護者の方は，昔と違って共働きの方が多くて，日中も会えない，日曜もお仕事なさってる方もいらっしゃって，保護者の方を巻き込むのが難しい時代ではあります。その中で町会の方の力をお借りして，学校側と交じっていくことは，新たな手段だなと思いました。

どこの学校も「ふれあいバザー」がなくなったので残念だなと思った次第です。

川口委員

椴法華は，今，人口９００人を切ってしまいましたが，小さくなるとコミュニティの密度が逆に良い状況になってくるんじゃないかと思っています。

コミュニティ・スクールが始まって２年位くらいですが，校長先生と教頭先生が地域におられ，町内会にも参加していただいております。非常に触れ合って，人間的な感覚も分かります。

浴衣の着付けをして欲しいという行事があり，呼びかけると地域の着付けができる人が地域にいることが分かりました。

これは非常に良い例です。

基本的には人口が減ってるので，コミュニティの状況を上げるリーダー的な存在は学校の先生だと思います。校長先生や教頭先生だけでなく地域に先生が住んでいたら，子どもたちにとって，もっともっと熟成された環境ができるのではないかと思います。

校長先生や教頭先生が参加しただけで動きが出てきたので，一般の先生たちと活動できると，もっともっとコミュニティ・スクールの場が出てくると思います。

滝澤委員長

ありがとうございます。

まだ市民の方も中身をご存知じゃないでしょうし，その役割分担といいますか，役割をどのように分けていくか，委員のみなさんも関わるとしたら，どのようなところを整理するか，ご意見はございませんでしょうか。

八田委員	これは予算付けされているのでしょうか。
堤学校再編・地域連携課長	運営協議会は１０名の委員がおり，毎年，委員報酬は予算計上されております。
八田委員	そうすると，催し物をやった時につく予算というのはないということでしょうか。 昔「子ども会」という組織がありましたが，そういうイメージでしょうか。
堤学校再編・地域連携課長	「子ども会」は町会の方や地域の方が中心になって，色んな催し物を行っているといったところだと思います。 ＣＳは，学校・家庭・地域が連携して学校教育活動を，しっかりと工夫していきましょうと，学校の教育活動に参画していきましょうというのが本来の目的になっております。よって，「子ども会」というのとは少し違います。しかし地域ということなので，繋げていかなくていけないと思います。
八田委員	ありがとうございます。 そうすると，割と学校の中での問題点を解決していくということですか。
堤学校再編・地域連携課長	子どもたちが行っている色々な行事がありますが，学校が計画を立てて，地域の方や保護者の方に連絡すると，ＰＴＡ等がお手伝いをしてくださる，というのが，今までのスタイルでした。 学校運営協議会のねらいは，一緒に作っていきましょう，一緒に考えていきましょう，一緒に計画を立てていきましょう，ということにあります。 先程のお話にも繋がってきますが，学校運営協議会の目標は，学校が中心となって取り組むものではありません。学校運営協議会の中では，当然，最初のうちは校長先生や教頭先生が中心になって，色々な企画をたてたり，色んな連携を図ると思うのですが，次第に地域の方々や保護者の方々がコーディネーター役となって，学校や地域を結ぶ役割を担っていただきたいなと，私たちは思っております。 今まで学校が独自で進めていた教育活動とは，少し違った視点で子どもたちが見えてくるかもしれません。 これが学校運営協議会がねらっているところだと思います。
八田委員	ありがとうございます。
滝澤委員長	他にないでしょうか。

佐藤（正）委員

分かりにくいのだと思います。

新しい制度ですし，３０年度で，小学校３０校，中学校２０校と，これだけあるわけですから。

そもそも理念は分かりましたが，どういうメンバーで組織されているのでしょうか。既に始まったところから，具体的に何に取り組んでいるのか，その辺りを説明していただければ，すごく分かりやすいと思います。どういうメンバーなのか，どういう取組みをしているのか，ということ等を説明して欲しいです。

資料にもコミュニティスクールの成果として棒グラフや学校の取組みが掲載されており，これが取組内容だとは思うのですが，既にスタートしてる訳ですから，実績が資料としてあると分かりやすいと思います。

堤学校再編・地域連携課長

はい。少し，資料不足だったと思います。

今，口頭でご説明をさせていただきますと，学校運営協議会，先ほど担当の方からも話がありましたように，今の段階で，小学校が３０校，中学校が２０校ということで，５０校がコミュニティ・スクールを導入しており，３６運営協議が設置されております。

運営協議会の数が少ないのはなぜかといいますと，合同で行っている学校があるからです。

小学校・中学校が一緒になって一運営協議会を設置している学校があるほか，中学校を中心にその校区の学校が集まって一運営協議会を設置している学校もあります。

来年も，全ての幼稚園，小学校，中学校，高等学校が導入されて行く予定ですが，まだ合同でいくつになるか決まっておりません。場合によっては，単独で学校運営協議会を設置する学校もありますし，合同で運営協議会を設置する学校もあると思います。

一運営協議会が役員１０名です。複数の場合は，２５名以内というような形で，私たちの方で要領を作っております。

どのような方が委員に就任されているかと申しますと，保護者，地域住民，町会長さん，それから，学校運営に資する活動をする者としています。

それから，校長先生，または，その他教育委員会が必要と認める者ということで，組織されているところでございます。

実績につきましては，まだ本格的にスタートしたのは今年度ということで，何か大きなところで取組みを進めているかというと，まだそこまでの実績はございません。

私たちの方で確認しているのは，先程も申しましたように，この学校運営協議会をしっかりとみんながそれぞれの意見を出し合えるようなものにしていこうということで，それぞれの立場での子どもたちの

堤学校再編・地域連携課長

情報交流であったり，安全マップづくりなどがあげられます。それぞれの学校の校区で安全マップを作ってるのですが，それを再度見直して保護者の視点，地域の視点，学校の視点で，もう一回見直してみようと，どんなところが危険なのか，そういう取組みをしている運営協議会があります。今年度については３回位設定している学校が多く，１回目は校長先生が学校運営を承認していただくために，学校ではこういう学校活動を推進していきますよということを委員のみなさまに説明をし，承認をいただくという形が多いです。

２回目は，それぞれの立場から子どもたちに関する情報を交流する。

３回目は，一年間の活動を評価することを考えている学校が多いです。それ以外でも取組みを行っている学校はありますが，今多くの学校は，大体，ただいま説明いたしました取組となっております。

滝澤委員長

本日，委員のメンバーで学校関係者は私だけですので，私から少しお話をさせていただきます。

本校の北中学校もＣＳを今年から始めました。

やぱり，コミュニティ・スクールとは何なのか，という話から始まりました。委員のメンバー的には，先ほどの再編の課長からお話があったように，本校についても現在のＰＴＡ，前のＰＴＡ会長，その他にも，地域で活躍している方，町会の方，児童館の方，地域にいらっしゃる退職された教員の方に，委員に就任していただき，今年はスタートいたしました。

どういう学校に子どもを預けたいか，ということになると，良い教育家庭とか，学力を含めて全国水準であることが求められます。

しかし，地域の子どもとしてどういう子供になって欲しいのか，どういうふうに地域の方が思っているか，ということのリサーチをすることがとても大事で，義務教育だから全国どこ行っても同じような学力や知識能力をつけるという使命を持ちながらも，地域の人材を育てるという役目を学校が担うとしたら，やはり，こういうコミュニティ・スクールの場で，学校対保護者，学校対地域，一対一の方向ではなく，総括的にたくさんの方からたくさんの意見をいただいた中で，子供を育てていきたいなと思っておりますので，なかなかいきなりは難しいですが，その辺りから少しずつ初めていければなと思っております。

池田さんはいかがですか。

池田委員

私には小学生の息子がおりますが，息子の通っている学校がコミュニティ・スクールを導入しているのか，存じ上げておりません。先程，先生からお話があった中で，現在のＰＴＡ会長さんと前の代のＰＴＡ会長さんが，今の協議会に入られているということでしたが，委員さんというのは学校の側から招集されて行くのでしょうか。どういう形や経緯で任命されて就くものなのかというお話を伺いたいのですが。

滝澤委員長　北中学校の場合は，学校運営協議会の前進の組織である学校評議会のメンバーに学校運営協議会の委員になっていただきました。
池田委員のお話にもありましたが，学校主導の委員の選抜については，最初は仕方ないと思うのですが，そういう形を避けるためにも，町会に学校と町会をつないでいただける方を推薦してくださいと，お願いをして，そこから来ていただく等，色々な方に委員をお願いした方が良いと思います。

池田委員　ありがとうございました。

佐藤（勝）委員　コミュニティ・スクールというのが，学校がリーダーとして動いているような感じがしてならないです。
校区に上湯川小学校があるのですが，そこに学校運営協議会があるのかないのか分かりません。残念ながら。
そして，運営委員として組織的に行いたいというようなことも聞いた事がありません。
私は町会長ですから，そういうお話があれば，当然みなさんに声をかけて，こういう動きがあったけれどもやろう，というふうに燃えるのです。
しかし，お話もなく，上手な方法がないかと思います。

堤学校再編・地域連携課長　上湯川小学校は来年度設置ということで，今学校で検討しているところだと思います。
今の声も，しっかり届けていただければと思います。
私たちの方も校長先生にお伝えします。

佐藤（勝）委員　私たちが届けるんですか。

堤学校再編・地域連携課長　私たちが届けますとは。

地域の方々が声を出していただいても全然問題ないと思います。そのような形で，例えば「来年運営協議会があると聞いたが，どのようになっているんだろう」とか，「積極的に関わっていきたい」，というような声を出していただければ，ということです。
そういった地域の方々の声をもとに，しっかりとした運営協議会が設置されてくるのかなとも思っております。
しかし，私たちの方からも，学校にお伝えしておきたいと思っております。

滝澤委員長　とは言うものの，学校から発信しないとなかなか難しいところはあります。運営協議会があるかどうかも分かりませんし。
上湯川は来年とのことです。

堤学校再編・地域連携課長

今，ＣＳは計画を立てながら進めているところだと思ういます。
ある程度のことが決まってくれば,「学校だより」等で，地域の方々や保護者の方々にもしっかりとお示しするはずです。

佐藤（勝）委員

ありがとうございます。ぜひお願いします。

川口委員

何かもやもやしたものがあります。何かその魂胆があるんじゃないかという感じがするのです。
例えばコミュニティ・スクールというのは，，日本では戦後始まったんですよね。荒廃した国土を学校と地域と一緒になれば良いということで戦後１回実施されました。

昔，我々は戦後の子どもだったんですが，地域と学校が一体化してて動いてたのものが，地域から学校が離れていったという状況を私は見ております。それなのに，また近づいてきた。地域に学校が入ってきたっというのが，何か裏にあるのではないかと。
極端に言えば時代が段々変わりつつありますよね。道徳教育の無償化とか進んできていますよね。なんといっても人間を作るのは教育ですから。教育現場が正しいもので立派なものだという感じがするのですが，この辺が引っかかるんです。
その辺について，学校からメッセージが届いてないんですよね。

滝澤委員長

学校だけでは子供は育てられないですよね。多様化している社会なので，中には保護者と学校の先生と接していない子どもたちも結構おります。地域の方に声をかけていただいたり，叱っていただいたり等，地域においても助けていただけると良いな，ということで，学校の経営にぜひ参加していただきたいと思います。
最も，一方的に学校側が助けてくださいっていうことではなく，学校が地域の中で果たす役割，はやり高齢化も進んでおりますし，今年のような災害があった時に，地域を含めて頼りにされる場にならなければいけないという部分もありますので，学校が果たす役割というのを考えていきたいと思います。特に私は中学校ですので，中学生は１０代の地域の若い人材として，地域でお手伝いもできるのではないかと思います。
新しいことを始める時というのは，ウィンウィンでないといけませんね。どちらかに負担がかかると，忙しいのにそっちばっかり助けてる暇ないとか，学校だって忙しいのにとか，地域の若い人材が地域で活躍できるようにするとか，長いスパンで見て学校を中心とした地域づくりというのを，力を貸していただければ，学校としてはありがたいと思っております。

佐藤（正）委員　地域おこしとか，もちろん浦幌町の例もそうですけど，子どもを取り巻く環境の中で，子どもの虐待とかいじめの問題だとか，これだけ社会問題になってもなくならない。この棒グラフで０％になっていますけども，どうやってそこで取り組むかというと別ですが，チェックする人の目が多くなれば間違いなく発見にもつながるわけで，いじめとか児童虐待とか，ぜひテーマにしてもらって，この学校教育の場でどうやったらなくしていけるか，ということをぜひ話し合ってもらいたいです。これ意見です。

滝澤委員長　防災とか，学校が地域と共有できる課題かなと。
学校が全て子どもの生活を知っているわけではないので，誰か大人が気がつけば，いじめなど防ぐことができるかもしれないと思います。

佐藤（勝）委員　今のお話聞いてて同感です。

今こういう問題があるから，学校と地域と父母と話し合いの場を持ちませんかと，こういう声をかけられると集まりやすいというか。
いじめの問題，虐待の問題，学力の問題を三者ないし四者で話し合いしましょうととなると，すごく行きやすいです。それをどこがどうまとめてどう声をかけてくるのか，というのは難しい問題ですけれども。ただ，委員さんには予算があるんですよね。そうなると難しいのかもしれませんけども，それは別としても，うまく集める方法があれば良いなと話を聞いていて感じました。

滝澤委員長　板東委員がおっしゃってたイベントというのは人が集まりやすいんです。そういった方々に探してもらう方法もあると思います。
他，いかがでしょうか。

既にアウトリーチとか，体育関係とか，学校にご協力いただいておりますが，学校との関わりの中でもっとハードルが下がるとやりやすいという観点からいかがでしょうか。

市田委員　色んな事を起こすには，新しいことを考えなければならないと思います。新しい発想の転換を図っていかないと難しいと思います。

滝澤先生がおっしゃいましたように，町会にお願いすると，どこでも同じような委員しかできない。
ここまできたら，高校生とか大学生とか，年代を追って委員を選んでいくとか，発想の転換を図らないと，団塊の世代が委員になっていくのでは学校は変わらないと思います。僕はたまたま学校に時間講師でいるもんですから。
私，池上学園にいて，いじめられたり学校に行けなくなったりした

市田委員　子を教えております。その子どもたちの色んな話を聞きますが，学校も生徒も父兄も悪いんです。全部が発想の転換を図っていかないといつまでもこの現状が続くんです。池上学園には，どんどん子ども達が入ってきています。１・２・３年生で８６名です。函館は色々な通信制の学校があって，２００人は超えると思います。だから，我々年寄りだけではなく，全員で図っていかないとなかなかうまくいかないという気がします。

廣岡さんがおっしゃったようにコーディネーターの育成とかを早目にやっていただかないと。

学校には言いにくいので，学校で何回も地域の人を集めて研修会を開いて新しい発想を変えていかないと，と思います。

滝澤委員長　委員の選び方ですが，色んな方にやっていただくのが大事かもしれないですね。

石﨑委員　私の体験として，３０年位前なんですが，私の子どもの学校で，学校コンクールを開催したのですが，限られた父母が来ておりました。子どもは大きな口を開けていて歌っていて，ものすごく感動的で，もっともっとたくさんの父母が聞きにくるべきというか，そうすると地域の方もこういう素晴らしい子どもがいるんだと，距離が縮まってくるし，身近にこういう場があるのは素晴らしいと思います。

滝澤委員長　運営委員だけではなく，地域の方を巻き込んでいくことが大事です。

運営協議会を参観日にぶつけて，参観していただいた後に会議を開く，という取組みをしていくとか。そのあたりも大事だと思います。

小池委員　コミュニティ・スクールの担い手がいるのか，不足しているのかが気になります。一律に始めるというよりも，できるところから始めて，少しずつやっていくのが良いのではと思います。

コミュニティ・スクールは新しい取組みなので，労力がかかる。スクラップ・アンド・ビルドで，労力を間引いて，スケジュールを調整して事務作業をしていくと，そんなことができるようになると思います。

いじめとか虐待とかが問題になっています。そういったことには機関の連携が必要になってくるのですが，お忙しいとは思いますが，直接的には関わらないのかもしれませんが，見守りにつながるようなサポートを，時間ができた方から積極的にしてもらえることが大切なのかなと思います。市の教育委員会とか学校だけに任せるのではない，という気持ちになっていけばいいなと思います。

八田委員	コミュニティ・スクールの目的が，子どもたちの成長を支えていく学校づくりを進めているのであれば，若いお母さんたちを支えていく場にもなっていけば良いな，と思いました。 地域社会の力が減っている中で，孤独な子育てをしていたり，シングルのお母さんたち等，悶々としている人たちが，生き生きとできる場にするために委員が選ばれていく，という観点から，委員の年齢も超えてほしいし，業績でも選ばれてほしいと思いました。
滝澤委員長	ありがとうございました。 講義でもお話しがあったように，コミュニティ・スクールは始まったばかりで，学校にとっても地域にとっても，まだまだ手探り状態ですが，将来的には，この仕組みにより，皆さんの活動のなかに学校との新たなつながりが生まれることを期待したいと思います。 事務局からお願いします。
阿部生涯学習文化課長	ありがとうございました。 本日は，コミュニティ・スクールについて学びましたが，コミュニティ・スクールの進展に伴って，今後，学校と地域が協同して様々な取組みが行われていくことが期待されます。 今後，学校と地域が協力して様々な取組みがされていくことを期待しております。 このテーマは，これからも必要に応じて意見交換してまいりたいと思いますので，よろしくお願いいたします。
滝澤委員長	事務局から，その他として何かございませんか。
阿部生涯学習文化課長	ございません。
川口委員	堀田部長にお願いですが，３年委員をしていますが，会議が少なすぎます。前は６回と聞いていました。色んな問題がたくさん出てきている世の中なので，もう少し会議を開催してもらえると，色々と出てくるのではないかと思います。
滝澤委員長	本日の次第につきまして，すべて終了いたしましたので，これで第２回社会教育委員の会議を終了いたします。 皆様お疲れ様でした。

以上，平成 30 年度第 2 回函館市社会教育委員の会議の会議録とする。

委員長　滝　澤　智　子